

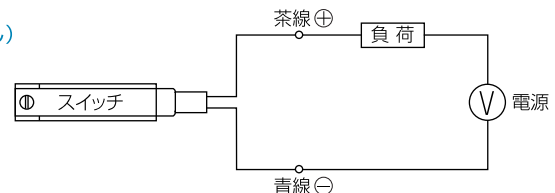
# スイッチの配線について

スイッチの配線についてのお問い合わせを多数頂いておりますので、基本的な配線の例をご紹介します。

## AC・DC電源における基本回路の配線

リード線の色分けに従って、正しく配線してください。  
誤配線により破損する場合がありますので、ご注意ください。

配線状況 (接点保護なし)



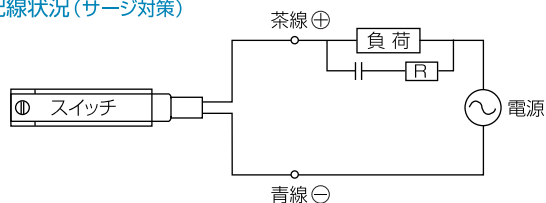
ご注意!

▼ 下記①～④の場合においては、接点保護回路を必ず設けてください。

- ① 誘導性の負荷 (リレー、電磁弁など) を接続して使用する場合には、スイッチOFF時にサージ電圧が発生しますので、保護回路を必ず設けてください。

コンデンサ:  $C=0.03\sim0.1\mu F$   
抵抗:  $R=1\sim3k\Omega$   
岡谷電機製XEB1K1または相当品

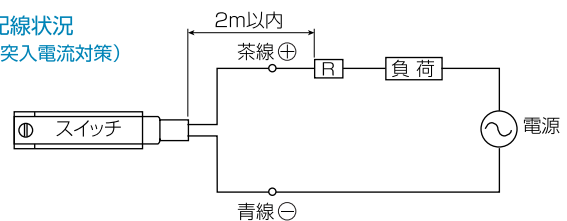
配線状況 (サージ対策)



- ② 容量性の負荷 (コンデンサ) を接続して使用する場合は、配線が長い場合は布線容量となり、突入電流が発生し、スイッチの破損または寿命の低下が発生しますので、配線長が10mを越える場合は、保護回路を設けてください。

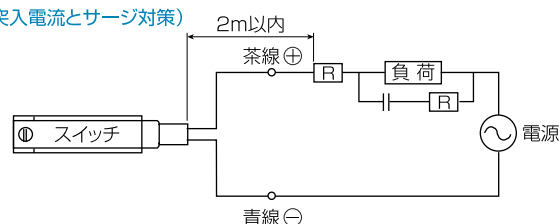
突入電流制限抵抗:  $R$  = 負荷回路側が許す限り大きな抵抗

配線状況  
(突入電流対策)



- ③ 誘導性の負荷 (リレー、電磁弁など) を接続して使用し、なおかつ配線が10mを越える場合は、上記サージ電圧対策①と、突入電流対策②を共に行ってください。

配線状況  
(突入電流とサージ対策)



- ④ 誘導性負荷 (リレー、電磁弁など) や、容量性の負荷 (コンデンサなど) を接続して使用する場合は、配線長が10mを越える場合は、接点保護回路ボックスを配線してください。

配線状況  
(突入電流とサージ対策)

